

1、開催日時：平成20年7月4日15：00～17：20

1、開催場所：秋田県臨床検査技師会事務所

1、当技師会理事数 25名

参加理事：菅原博之、畠山義彦、藤田三好、阿部 毅、宮野勇徳、奈良悦子
岩谷幸栄、三浦浩子、伊藤 功、伊藤良子、佐藤 寛、田中喜美子
榊田由美子、中川 聡、遠藤正志、高橋和則 以上16名

欠席（○委任状提出者）理事：○三浦 徹、○川上 登、○安部真理子、○伊藤優子、
○菊地孝哉、小笠原 彰、渡部 晃、高橋 稔、鈴木 睦子、以上9名
参加理事16名、委任状提出理事5名、計21名で総理事数の過半数を超えており
今回の理事会は成立した。

1、書記：中川 聡

1、議事録署名人：宮野勇徳、佐藤 寛

1、議事内容：菅原会長が議長となり、資料に沿って各担当者より内容の説明を受けながら審議された。以下に審議内容・決定事項を示す

議 事 議長 菅原会長

<書記の選出>

- ・ 書記は、中央 県北 県南 由利の順で行われており、今回は県南より中川聡が選出された。

<議事録署名人の選出>

- ・ 宮野勇徳、佐藤 寛の2名が選出された。

I、会長挨拶

5月30、31日と北海道全国学会に行ってきたが地方都市で行われるのは今回が最後でこれからは大きい都市で次回は横浜でおこなわれます。今回の学会は学術的にも、企画的にも大いに華やいだ学会でした。またこれからは一緒に行われていた学術部門長会議と理事会を切りはなした形で行います。今回の議事は中身がいろいろあって詰めていきたいので討議よろしくお願いします。

II、19年度3回、20年度1回の議事録訂正、追加

<19年度3回>

- 2枚目一番下の行 盛会裡を盛会裏

- 学術部門前年度配当金残金まだかえってきていないので返金ねがいます。
- FM樺台コマースの件は予算的に対応できるので7-8月の共有化委員会で話し合う。
- 業務作成論文集はすべてのところとは言えないが集まってきている。

<20年度1回>

- 泉谷さん給与予算4万円オーバーぶんを共有化事業から援助。
- 基幹3施設の代表三浦さんが秋田組合病院に転勤になったのでその3施設(大学、山本、平鹿)の中から代表を出してくれるように技師長あてにお願いを出した。
- 県学会その日に理事会を開いて全員参加になるようにしたい。
- 公益法人で取り組める事業 宮城県ではエイズデーにあわせてチラシ、テッシュを配っている等。
- 7月12日日臨技各都道府県会長会議がある。そこで各技師会の支部化(東北技師会の支部)のとりまとめにはいるが、このことについてのメリット・デメリットがあまり把握、話し合いされていない。
- 部門長、分野委員名簿を三浦さんをお願いしてあるのででき次第、確認します。
- 5枚目9行目分野院員を分野委員に。
- 技師会員名簿名前を載せてほしくない人は載せない方向で・・・。1施設2-3部程度。
- 事務員の給料100円アップ700円から800円に。

Ⅲ、議事

- 1) 第49回東北医学検査学会 功労賞・奨励賞の推薦について
- 2) 県環境保健事業功労者表彰・日臨技巧労賞の推薦について
- 3) 秋田県健康づくり審議会 子宮がん 肺がん委員の推薦について
- 4) 労災保険情報センター「職員研修会」への講師派遣について
- 5) 平成20年度事業計画進捗状況について
- 6) 第50回東北医学検査学会について
- 7) その他

菅原会長進行のもと、次第に従って会議を進めていった。

- 1) 第49回東北医学検査学会功労賞・奨励賞の推薦について

○功労賞 技師会に長年貢献、協力いただいた方 県環境センター 原田 誠三郎さん
 奨励賞 五十嵐病院 佐藤峯子さん

- 2) 県環境保健事業功労者表彰・日臨技巧労賞の推薦について

○県環境保健事業功労者 中通総合病院 佐藤 昭さん
 日臨技巧労賞は、ハードルが高いので今回はなし。

3) 秋田県健康づくり審議会 子宮がん 肺がん委員の推薦について

○子宮ガン委員 秋田病理組織細胞センター 阿部一之助さん

肺がん委員 赤十字病院 奈良幸一さん

4) 労災保険情報センター「職員研修会」への講師派遣について

○内容が臨床検査についてということで医師会から紹介があった。講師の都合のよい日ということで10月3日、中通り秋銀明治安田ビル9階労災保険情報センター、事務所会議室で1時30分から90分ぐらい講師は市立秋田総合病院 松橋 博之さんをお願いした。

5) 平成20年度事業計画進捗状況について

①第33回秋田県医学検査学会

○11月22日由利本荘市ホテル「アイリス」で開催。要項は作成中で9月はじめに発送予定。部門研修会として一般、輸血、血液、細菌をお願い。ランチセミナーは部門研修の4つ以外の内容で4社ぐらい予定。シンポジウムも行う方向で調整中。送迎バスもです。演題の申し込み8月25日から9月20日まで、抄録受付9月16日から9月27日まで。演題申し込みよろしくお願いします。

②生涯教育（新人）研修会

○本年度新規加入者13名、昨年度加入者21名。新人の方向何人かに世話人になってもらって要望を聞いて9月ごろを予定。

③管理監督者研修会

○本荘の学会とジョイントしたい。事前に研修会を行って学会のシンポジウムへもっていく。テーマ「検査室運営責任者と検査技師のスキルアップ」・・・仮題

④福利厚生事業。

○秋に行きたいが今のところ白紙状態。

⑤制度管理事業

○制度管理委員会 三浦さん欠席のため次回に。

○共有化委員会 5月に第1回委員会を開催 昨年度より1施設増えた40施設にたいして、アドバイス、指導等をはなしあった。7、8月に2回目の委員会を行いデーターの思わしくないところをピックアップしどうするか、委員会で協議したい。

研修会は講師を招いて行いたい。

⑥健康と臨床検査展

○第23回健康と臨床検査展 平成20年11月9日(日曜日)8時45分から15時30分まで 場所:秋田拠点センター「アルヴェ」

⑦県委託事業

○今年は「肺がん検診従事者研修会」「特定健康診査従事者講習会」を県に相談しておこなっていききたい。

⑧その他(県学会での部門研修会について)

- 学術部門長会議で事業計画今年8部門中5部門から提案があった。(内容は資料参考)
- その他に、学会のほうで4部門別研修会予定。今年度の学術部門の研修費どうなるのか、あわせて学会での部門別研修会がどうなるのか、検討、協議していかなければならない。今の学術の予算配分のあり方は、事務連絡費として一律、部門別に2万円渡している。申請があった場合1研修につき5万円だされている。今年は予算オーバーしそうだ。今年10研修会予定で、5×10で、50万円。事務連絡費2万円×8部門で16万円。その他、これに載っていない研修会と、学会の4つの研修会で予算66万円をこえてしまう。学会のときの研修会費ちょっと曖昧なところがある。県学術費から出すのか学会の予算でやりくりするのか明確にされていないのでその部分を整理し、予算オーバー部分をどうしようか、削らなければいけないところをどうするのか、まずひとつ学会関係、今回の4研修の予算についてどのように考えているのか聞かせてほしい。
- 学会の予算140万円のうち、ホテルに70万円、印刷関係、抄録・要項に40万円、のこり30万円でいろいろなことを、やりくりする。(講師料含む)部門のほうへは、学会の方からやりくりして出すしかないかなと、今の時点では思っている。(10万以内)
- 去年の経験から話を出してほしい。
- 各部門から出してもらった。
- 技師会もぎりぎりのところで予算を立てているが、今回だけ、今後は別として、学会で予算オーバーの3分の1、技師会で3分の1、残りの3分の1に関しては、全部の学術部門から事業計画で1つ考え直しできないか?その調整をお願いしたい。
- 技師会予算と、学術の半分、半分で折半という考えはどうか?
- 140万円から少しオーバーした決算でもしょうがないということか?
- 学会というのが収支の中でプラスになって、それが技師会の事業収入としてある意味でプラスアルファという考えが、前はあった。今支部でそれぞれにやるようになってからその中ではある意味では独立的になってきている。(事業収入と学会収入)その部分に関

して見えないところが出てきている。公益法人を進める部分でこのところを、きちんとすべきである。今回の学会に関してはその部分に関するきちんとした収支報告を技師会としてやっていかないとこの次の会計のときにまずいだろうと声があがってきている。菊地さん今回技師会の会計をしているので菊地さんにその部分をお願いできないだろうか？学会のほうで会計担当を別に設けていらっしゃるでしょうか？

- 学会のほうも菊地さんに任せている。140万という予算があったので、それがどういう打ち分けになっているか、去年・一昨年の学会会計を資料出して調べ、配分を考えたのが、さっき述べたことです。30万円の中に部門に渡すお金は入っていなかった。何かの名目でもしそうなるとすれば、そこから出すのか、後は140万の予算だが、10万オーバーまでは許せるのならそこから出せるだろう。去年、一昨年に関しては、うまくやっていたら、細かい中身に関して直接的にもない。(これにいくら、あれにいくらというの)今回は交通費がかかっていない。県北はかなりの額交通費はいつていた。それでやり繰りしろと言えはしないといけないとおもう。
- 一時学術部門研修会、下火になった時があった。どうして学術部門研修会に人を集めるか、県学会にくっつけて行なうと人が集まるだろうということで、場所代は負担するからあとは、部門の交付金の中で講師呼ぶなり、やりくりしてそれを1回、後は自分たちでもう1回で年2回行ったらという過程があるので、学会費から部門に講師代を出すという予算は盛っていないはず。研修会1回につき5万円ではなく、1部門年間事務費を入れて7万円の交付金なので、その中で何回やってもそれしか出ない。前年度交付してもらったが、行なわなかった所は返してください。その中でまわせるところはどこかへ回してやりたい。各部門で保留しているお金、持っているところあるはず。これから公益法人化になれば交付金というものがぜんぜん駄目になると思う。今後のお金のやりとりについて、みなさんに考えていただきたい。
- 学会を主宰する側としては、行うことを前提にして話してもらわないとこまる。多少費用が発生するなら、多少とは、いくらだったら1万ならなんとか2万なら・・・
- 予算として学術で決まっていて、学会として多少ふくらんでもいいかもしれないが、学術の部分で大きくふくらむ計画性としては、論外である。その部分が今まではっきりしなかった。学会はあくまでもその担当のところの企画でこれから部門別研修会やる、やらないは自由、今回に限って言えばふくらんでしまっている。当時は回数少なく、残っていた金に関しては複数回行ってよいという形で進んでいるはず。そういう部分でこういう出しかたしている人もいるし、これしかないから2, 4, 1万と企画している人もいる。考え方の統一性がとられていない。本来なら集まってもらってこのところをはっきりしないとあとでもめる。それとこの間出たのは、2, 4, 1万で何ができるといって研修会の企画の費用としてはほとんどできない、ある意味ではメーカーさんに講師の派遣に関して協力をいただく内容、研修会のありかたになってしまう。ある意味で企画していく以上は、駄目という言い方もできないし、賛成という言い方も

できない。今回の学会に関しては学会の予算としてその部分で出すこともできるが、学術の部分で学会費として4部門全部こちらのほうで出していいかということはむしろかしい。それで折半しようかという話をだした。常任のほうでも詰めるが、学会のほうでも話を出してほしい。

- 学会で何をどうはなしするのか？
- 研修会に関して技師会からこういう風な話で、もしかしてその部分に関して3ぶんの1位の負担として願するということも・・・
- 学会の方から予算を出すとして、140万を超えてもいいのか、以内でやらなければいけないのか一番気になる。
- 収入の内訳でときには140万とあるがその中には広告費とか含まれた140万？
- 学会の収入として入ってくる額考えていない。いくら入ってきても140万使おうと思っている。実際にそれくらいないとできない。
- 技師会で140万予算としてあるかといえば、あるわけではなく、コマーシャルでの収入を想定した上でのこと。ゆえにメーカーのコマーシャルで収入を上げて部門別研修会にまわれるようにしたい。
- どこでやろうが何をしようが最低でも140万はかかるはず。収入範囲で行うなら、最初から見込みを出して計画しなければいけない。
- 20年度決算をみると、広告・ランチセミナーの収入がなければ予算は成り立っていない。技師会からの持ち出しは20万円ぐらいなので、がんばって広告・ランチセミナーを募集して増やしてほしい。
- 最初から学会の収入を出しておいてその範囲内の学会を行うのが普通だと思う。
- 今までの広告一覧をあたらなないといけない。
- 広告一覧をこれからあたります。いくら入ろうが予算で収入が技師会に入るだろうという開催方法だと思っていたし、実際、そうおもっている。
- 収入は技師会に入っていない。全部県学会です。
- 学会収入として140万というのは、昔からその部分でのお金はなかった。今の形態のやりかたが収支のつけかたで歴代行われてきた方法。
- そうであれば100万円規模の学会を開けばよいのか？140万の範囲で行えばよいと思っていた。その中で収入は技師会へ、会計のほうへそっくりやる。あちこちにまわすとすれば、収支の良い所・悪い所も中央でやるよりは地方のほうが参加人数も少ないし条件も悪い。収支も悪くなるだろうという企画だと思っていた。収入がどうのこうのというよりある程度の規模の学会をやってくださいということで進めた。ある程度、つまった時、部門研修会に金がかかるという話をされると、やめてしまいませんか？まで、いってしまう。こういう話は事前にしておかなければならなかった。部門の方にお金がかかるのなら、学会のほうからお金を出しなさいという話であればなんとかまわすようにする。

- メーカーからのコマーシャルはきちんともらいましょう。この部分をきちんとやればうまくいくはず。
- 広告をがんばって取ってきましょう。
- 収入に関しては、それなりに上げる努力はする。
- 収入と支出のバランスを考えながら、なお且つ140万円の中でおさめられれば一番いい。プラス収入もっと上げてほしい。
- 収入に見合った運営を学会がしなくてはいけないなら最初からそうあるべきだ。ある程度保障された数字がなければやれない。
- 協賛に関してはどこでも技師会として依頼すればくる。本荘だから来ないというメーカーはおかしい。最低ラインは考えてほしい。
- ある程度の収入の範囲でやると話があればそれで計画する。去年、一昨年実績で考えた
- 来年の東北学会もまったく同じ。ないところから予算化して1200万円規模で計画をたてている。
- ないところから進めていくならそのように行った。最初学会を開く時点でどのような形で行っていくか話をしてもらわないと、今の時点の話ではあまりにもおそすぎる。あまりお金かからないようにするが、これからの努力なのでどうなるかわからない。
- 講師の件は前年度の戻ってきている金額を見ながら調整してみて、ダメなら会長に相談どこか予算のところをなんとかして・・・
- 早めに協賛するという所を出したところとそれに関して返事もらっている所のリスト作製してほしい。
- 広告に関してはまだ依頼を出していない。要項と一緒に送ります。
- 賛助会員以外のところでとれる所を探してそういうところ理事にお願いする。
- メール便で交渉して75円で送る。
- メール便屋さんにも広告いかがかと？
- 印刷会社に頼んでも出してくれるのでは？
- そこのところ一生懸命やるのでなるべく多く上げるようつとめる。
- 部門の研修会の予算としてどれだけ見ればよいか？
- コマーシャルが増えた分だけそれに盛ればよい。
- 準備金、ほんとうは返してもらえる。それはあくまでも貸しているものなので・・・
- 学会での収入は学会で管理しても良いと言うことか？
- それで学会会計がいる。
- 学会収入の中で学会運営することか？
- そうです。
- 学会、学術の予算にかんしては、66万と額が決まっているのでこれを大幅に、プラスすることはできない。多少は出るかもしれないがその部分は、なんとか学会のほうにも負担してほしいということをお願いしたい。どうしてもできないとなれば、学術予算でです。

理事の方には理解しておいてほしい。また学会の学術のほうにも計画の見直しをしてほしい。

⑨その他（微量採血用穿刺器具の使用について一検査と健康展での使用確認一）

○微量採血用穿刺器具の使用について保健所から調査依頼があった。期間は平成7年から平成19年までで、平成16年まではホルダーの医療採血行っていなかった。微量採血用穿刺器具を平成17、18年は使用した。メーカーに問い合わせた結果、ホルダーの不適切な使用はないとの報告を受け、秋田市保健所に「不適切な使用はない」と報告済み。

平成19年に関しては、テルモのワンタッチ式なので問題なし。

○検査展で1～2年不適切な使用があったのでは？（古いタイプのホルダーで）

○もし使っていたのであれば、修正報告しなければいけない。

○もしこの件で何かあったら阿部副会長に報告願います。

6) 第50回東北医学検査学会について

①49回学会への実行委員派遣について

○会計は特別会計から予算を出す

実行委員は来年の学会で軸になってくれる人5名 阿部毅準備実行委員長・三浦学術部長・佐藤寛理事・田中喜美子理事・学術松橋部門長 それと、菅原会長・宮野事務局長 別立てで学会準備金として引き当てしたい。特別会計通帳に500万円+ α +去年の繰越金10万円ある。

②その他

なし

IV、事務連

①平成20年度第1回通常総会決算報告

永年職務精励者記念品の単価を下げた。昨年度に比べ対象者が30名少なくなったのでその分ういた。会場懇親会代も前年度30万に比べ今年度は予算15万8千円で、かなり抑えられることができた。追加として税理士の方に資料作成代3万円支払った。

プラスアルファして差額35万1千16円。

②「岩手・宮城内陸地震」義援金の協力依頼

秋臨技20-7号 資料どおり。

新潟中越沖地震のときの義援金7万7千7百51円だった。（全国で3百万円）

③秋臨技運営規定改定について

a 事務所運営規定

事務員報酬700円を理事会の承認を得て800円にした。

b 学術部検査研究部門運営規定

今年度6部門から8部門にかわった。各分野の名称も若干かわっている。この点に

ついて三浦学術部長と最終確認をとる。

④その他

なし

V、その他

○みちのく緊急検査研究会で宿日直業務に関する勉強会を企画（場所 盛岡）したので案内を周辺関係所にまわしていただきたい。

点数はつきます。

○8月30日の東北地区生理研修会の詳細は送付済み。

○共有化サーベイのユーザー会 第2回目で話もんで秋口に日臨技の理事をお願いをしている。

○東北学会の件 アレルギー学会と同日に開催 会場はメトロポリタン・保健センター・文化会館を予約している。アレルギー学会から会場が借りることができない時も独自で開催できるような手立てで進めていきたい。

社団法人 秋田県臨床検査技師会

書 記 中川 聡

議事録署名人 宮野 勇徳

議事録署名人 佐藤 寛